



## 「復旧」から「復興」へ 創造的復興へ新たな一歩を

一般社団法人 RCF  
代表理事 藤沢 烈 さん

全国各地の災害復興に携わり続け、本市においても宇和島市復興まちづくりアドバイザーとして、災害を乗り越えた先の未来を創るまちづくりへアドバイスをもらっています。



本市は「つなぐ」という復興理念のもと、多くの人とのつながりに支えられて歩みを進めてきました。藤沢さんは、アドバイザーとしてその歩みを見守り、背中を後押ししてくれています。

私たちは被害にあった園地や住宅、道路などを少しでも早く元の状態に戻すことを考え、行動してきました。4年半経った今でも完全に元通りには出来ていませんが、ほとんどがその姿を取り戻しています。

その中で藤沢さんは、当初から元通りに復旧するだけでなく、さらにまちを発展させる「復興」に向けた取り組みについてアドバイスをしてくれています。特に藤沢さんが深く関わってきた宇和島NPOセンターの活動や新規就農者の支援などが少しずつ実を結んできています。

藤沢さんは、本市が復旧の過程で見えてきた地域における「平時の課題」に取り組むことが復興につながっていくと話します。単身高齢者や子どもたちが孤立しないような人間関係を築くことは、今の地域の課題として挙げられるうちの1つです。こども食堂などを通じて、地域の人同士のつながりをつくることで共に助け合える

関係が築かれ、これから起こりうる南海トラフ地震などの大規模災害への備えにもなります。

本市が災害ボランティアやシティセールスなどさまざまなきっかけで地域間のつながりを作っていることも復興には重要なことと藤沢さんは話します。宇和島を知るための入口はたくさんあっても、訪れたり移住したりするには、そこに住む人とのつながりが決め手になってくるのがほとんどです。新しい人たちが来て、お互いが尊重し合い新しいことに挑戦できる場所になることが「復旧」から「復興」という発展につながっていくと藤沢さんは説明します。

では、創造的復興とは。この質問に藤沢さんは「以前の状況ではない新しい状況にしていけること。市民の皆さんの生活を元に戻すだけでなく、市民の皆さんが何か新しいことに少しでも挑戦できるようにすることが、市民目線での創造的復興ではないか」と答えてくれました。

私たちの目指す創造的復興は、これから皆さんと共に新たな一歩を踏み出すことで見えてくるはず

※復興掲示板は、本号を以って終了します。